



## 発刊にあたって

鹿児島県工業技術センター

所長 陣内 和彦

「過去（歴史）を忘れた民族に未来はない」と言われています。古い歴史を持つヘブライ語とアラビア語が右から左へ書かれるのは、国と民族の歴史をしっかりと石版に刻むため右手にハンマーを持ったからだそうです。これらの言語と歴史は現在の世界文化のルーツの一つとして大きな影響を及ぼしています。

鹿児島県工業技術センターはこのたび満5周年を迎えました。当センターは全国に先駆けて昭和62年12月1日に、既存の工業試験場、機械金属技術指導センター、木材工業試験場を統合して、国分・隼人テクノポリスの中核試験研究機関の一つとして創設されました。爾来、県内産業振興のための技術的よりどころとして、関係諸機関のご協力を得ながらその役割を果たして参りました。

然るに、最近の科学技術をめぐる諸情勢の変化は、高度な技術革新、ソフト化・情報化そして国際化が急速に進展するなか、更に、豊かな生活の実現、地球環境・エネルギー問題の解決などに緊急な取り組みが求められています。

当工技センターとしても時代を先取りした先導的な独自研究開発に取り組むべく、中長期的重点研究分野と研究課題を抽出しました。同時に、研究者一人一人は担当する技術分野で唯一優れた専門家「One Area Expert」を目指し、よってセンター全体の一層のポテンシャルアップを図ることとしています。

また、産学官の連携協力によって国庫補助事業の地域技術おこし事業及び地域人材不足対策事業（平成5年度から）にも積極的に取り組んでいます。昨年11月には企業研究者等育成事業に着手、先端技術から伝統技術までを網羅し両者の融合化を目指す「鹿児島ハイテック研究会」12グループをスタートさせたところです。

今後とも、当センターは地域の産業や環境に基づく特徴ある研究課題に対して基礎的且つ先端的視点から取り組んで得意な研究分野を確立するとともに、地域からの幅広い技術ニーズに的確に応えることによって、真に県内産業振興に貢献することが必要であると考えます。

今回、この5周年を当センターが創設期から整備期を経て新たな発展期へ入る重要な節目としてとらえ、ここにこれまでの「あゆみ」を記録として残し、これからの洋々たる未来への「一里塚」といたしたいと存じます。